



消防大学校だより

救助科(第67期)

消防大学校では、平成25年4月16日から6月6日までの52日間にわたり救助科第67期を実施し、全国の消防本部等から選抜された救助業務の指導的立場にある消防職員60名が、寄宿舍生活を送りながら共に学びました。

救助科の教育目的は、救助業務に関する高度な知識及び技術の修得と、救助業務の教育指導者としての資質向上を図ることであり、特に救助業務の管理者・指導者としての資質向上と、組織の幹部候補として必要とされる知識や心構えの修得を主眼に置いて実施しました。

座学では、安全管理をはじめ、現場指揮、リーダーシップ論、救助行政の動向、NBC災害、救助技術の高度化、予防業務、火災調査、人事管理、教育技法、説得技法及び接遇等、救助隊長として必要不可欠となる知識の修得に努めました。

実技では、教育指導演習、危険予知訓練(KYT)、指揮シミュレーション訓練、火災対応訓練、NBC災害対策訓練、震災対応訓練、多数傷病者対応訓練、急流救助対策訓練、編みロープを使用した訓練及び学生企画総合訓練等から、救助隊長として身につけるべき基本技術を学びました。

また、今期から実火災体験型訓練(ホットトレーニング)を取り入れ、過酷な火災現場と同様の濃煙熱気を体験するとともに、火災性状等に関する知識の修得及び高度の注水技術を学び、実火災対応型の訓練を実施しました。

また、実技全体を通じて、座学で学んだ安全管理理論を訓練で実践するため、「安全・確実・迅速」を目標に掲げ、危険な行動には迷わず停止させる習慣を身につけました。

研修を終えた学生からは、「救助技術だけでなく、今後、指導者としての考え方や情報を広い分野で研修できた。」「教育指導、安全管理の修得ができたことと同時に、新たに取り組むべき課題も見出せた。」など、多くの前向きな意見が寄せられました。

今後は、消防大学校で学んだ知識・技術にさらに磨きをかけ、組織力の強化を果たすとともに地域社会の安心と安全の確保・維持のため活躍することが期待されます。



学生企画総合訓練



課題研究・グループ討議

救急科(第75期)

消防大学校では、平成25年5月7日から6月5日までの30日間にわたって、救急業務の指導・監督的立場にある職員の資質の向上を目的に、救急科第75期を実施しました。全国の消防本部等から選抜された救急隊長・都道府県消防学校の救急担当教官等が、設定されたカリキュラムの下、教育訓練に積極的に取り組みました。

現在、救急業務は、出場件数の増加、医療との連携による搬送体制の構築等多くの課題を抱えており、学生は救急業務の指導者として必要とされる知識、技術の習得に努めるとともに、その職責、心構えについても認識を深めました。

研修では、消防庁救急企画室長をはじめとする多彩な講師陣により、救急が抱える法律的問題、その解決方法、最新の救急医療の動向、大規模災害への対応として医療との連携などの他、先進的な指令室業務の講義そして現地視察等を実施しました。また、表現能力の向上を図るためにパワーポイントを用いた資料の作成等効果的な活用方法を学び、系統だった理論に基づいての部下指導及び研究発表などが実践できるよう、リーダーシップ論、教育技法、説得技法や接遇に関する講義や演習等も実施しました。

さらには、課題研究の授業では、各学生が救急業務を遂行する上での問題点について自らテーマを設定し、現状、課題、解決策等について整理、検討を行い、その検

討結果については研究成果として、学生全員の前で発表しました。この他、訓練企画運営の授業では、研修の集大成として各班ごとに救急訓練のシナリオ作成を行い、他の班を実施隊として想定訓練を実際に行い、訓練結果についての検討会を設け評価し合うことにより、訓練指導技術の向上に大いに役立つ内容のものとなりました。

1ヶ月にわたる研修の中で、学生は多彩なカリキュラムに真剣に取り組むとともに、寮生活においても各消防本部の現状及び業務上抱える課題等について熱く語り合い、全国規模の絆を育みました。

教育を終えた学生からは、「指導・管理的役割の立場にたつ者のための教育訓練であると強く感じた。」「今まで経験したことのない講義内容であった。」「教育訓練と現場活動をどう結び付けながら、救急隊員をどう育てるか、その難しさと大切さを深く学ぶことができました。」などの意見がありました。

救急科第75期の卒業生42名は、全国各地の消防本部等において救急業務の指導者的役割を担い、若手の育成、医療との連携、業務高度化への対応等様々な場面での活躍が期待されます。

問い合わせ先

消防庁消防大学校 教務部
TEL: 0422-46-1712



企画訓練（救命処置）



視察研修（指令センター）